

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年8月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3071201036
法人名	有限会社 友里園
事業所名	ねごろの里
所在地	和歌山県岩出市森236番地 (電話) 0736-61-2547

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成20年8月8日	評価確定日	平成20年8月 日

## 【情報提供票より】(20年7月12日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5人, 非常勤 5人, 常勤換算	7.94人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,800~33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有( 300,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

### (4) 利用者の概要(7月12日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	かわぐちクリニック、みやもと歯科
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の一角にあり、周囲の民家と同じ雰囲気では違和感なく地域に溶け込んでいる。提供するばかりではなく、一人ひとりの出来る力を見い出し、支援型のケアに徹したいという姿勢で管理者・職員共に一丸となり努力している。開設後5年という積み重ねの元、慢心する事なく利用者の立場に立ってさらに新たな気付きを求め、サービスの質の向上に取り組んでいる。地域の中においても貴重な社会資源として認められることが期待されるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回指摘のあった地域との交流及び地域への働きかけについては、運営推進会議の中で協議し参加者の理解を得て意見を聞く中で、地域の行事には積極的に参加すると共に、管理者が地区の役員会に出席して理解を求める機会をもっている。また、近隣者を招待してホーム内で夏祭りを開催するなど、着実に改善に向けた取り組みがなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は職員全員が各自自己評価を実施し、全員で協議の上まとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、ホームの取り組みや認知症についての理解を深めて貰う機会となっている。また、地域密着型としての課題についても話し合っており、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月ホーム便りを発行しホームでの暮らしぶり等報告する中で、来訪時や家族会等の催しの機会に意見等出して貰える様働きかけている。出された意見については迅速に対応し、それらを運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、ゴミ置き場等の清掃を利用者と共に行っている。また、今年度よりホーム内で夏祭りを開催して近隣者を招待する等交流の機会も増している。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者さんをもっと知ろう」という運営理念の下、管理者・職員共に利用者を十分に理解し、一人ひとりの内にある力を見出し発揮し、その人らしい暮らしを支援していく事を念頭に置いている。	○	地域の中で利用者を支えていくという観点から、ホーム内に限らず、地域の方々にも理解を求め、関わりを深められる様、理念を見直し、さらに一步前進される事を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は常に理念を共有し、意識を持ち日々の業務の中で理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、ゴミ置き場の清掃を利用者と共に行っている。また、今年度よりホーム内で夏祭りを開催して近隣者を招待する等交流の機会も増している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員共に自己評価・外部評価の意義を十分に理解しており、改善に向けた取り組みも積極的になされている。今回の自己評価についても各自が評価を実施した後、全員で協議の上まとめている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、ホームの取り組みや認知症についての理解を深めて貰う機会となっている。また、地域密着型としての課題についても話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは積極的に連携を図っており、行き来する機会も多く持っている。また、管理者はサービス事業所代表者会議にも出席してホームとしての情報提供を行う等、質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行し、ホームでの暮らしぶりや健康状態及び預かり金の出納明細等は定期的及び個々にあわせた報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等には来訪時や運営推進会議及び家族会の催しの中で積極的に意見等を出して頂ける様働きかけている。出された意見等は、カンファレンスの中で話し合い迅速に対応し、それらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職等は最小限に抑える様努めているが、致し方ない場合は説明し、ダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修・中堅職員研修等外部研修には選抜で参加し、その伝達研修で全員がレベルアップを図れる体制になっている。内部研修も必要に応じて随時開催している。また、新入職員等については、チェック表を作成し、全員で研修・育成等の効果を確認している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会に加入し相互実習を行っている。また、近隣の同業者とも意見交換等の機会があり、日々のサービスを見直す良い機会になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族が安心してサービス利用を開始できる様、雰囲気づくりや馴染みの関係づくりに努めている。また、併設している認知症対応型通所介護を利用し、のちにホームを利用される場合もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごす時間を多く持ち、様々な経験談から多くの事を学んだり、家事等生活の知恵を教えて貰ったりと、ほのぼのとした雰囲気の中で共に支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「利用者をもっと知ろう」という理念も掲げており、一人ひとりの思いや意向を様々な機会を通じて、より深く把握しようと努めている。また、センター方式の様式を使用し、ミーティングにおいて職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	より良く暮らして頂くため、利用者の担当職員を決めて十分な把握に努め、家族等関係者の意見を取り入ながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画に対する評価を担当職員が記入する事になっており、毎月カンファレンスを行っている。また、状態が変化した場合には随時見直しを行う等現状に即した適切な計画となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域のクリニックと医療連携体制の契約を結んでおり、十分な医療体制が整えられている。また、通院時の対応や思い出深い場所等へのドライブなど特別な外出支援もなされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医として近隣の内科医の往診が月3回行われている。その他必要に応じて他科受診も支援しており、適切な医療が受けられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合や終末期の看取りについても説明し「緊急時の同意書」の中で意向を確認しており、必要に応じて繰り返し話し合いの機会を持ち、かかりつけ医と共に変化に備えて検討や準備がなされている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を尊重しており、言葉かけや対応なども穏やかで、プライバシーを損ねる言動は見られない。呼称については一人ひとりの利用者や家族の希望に添って決めている。また、個人情報についても保管等取り扱いは厳重になされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、できるだけ希望に沿った生活ができる様支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを取り入れて献立を立てているが、1か月の内に「フリーの日」を設け、その日は広告を見て献立を決めたり冷蔵庫の食材を活用してみんなで作れるものを考えたりと変化を持たせて楽しんでいる。また、準備や片付けなど出来るだけ手伝って貰っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめる様支援している。浴室の入り口に「ゆ」と手描きの暖簾をかけて雰囲気を出し、季節感を味わって頂ける様、柚子を入れたり、入浴剤で温泉気分を味わうなど工夫を凝らしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	モップかけや掃除、洗濯物の取り込み、食事の準備等一人ひとりの生活歴や力を活かした役割を持って貰っている。また、玄関脇の花壇で花や野菜を育て、収穫等も楽しみにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日によってコースを変えながら近隣神社等への散歩を楽しんでいる。また、スーパーや花屋等への買い物も週2回を目安に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	午前6時30分から午後9時30分までは施錠していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施している。内1回は自主消防訓練として夜間の火災を想定し、近隣者の協力も得て防火訓練を行っている。秋には消防署の協力を得て実施する予定がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は十分に確保出来る様毎日チェックしている。栄養バランスは併設デイサービスの管理栄養士の協力を得てメニューの点検を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関付近には花や野菜が植えてありベンチも備え付けて一休みしながら眺められる様になっている。居間や食堂等も居心地良い雰囲気ですっきりと過ごせるような工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力により、自宅から使い慣れたものや好みのものを持って来てもらう等、一人ひとり居心地良く過ごせる居室となっている。		